

解決に必要な情報を得るためのポイント

問題点のみを取り上げるのではなく、要因を把握し、具体的な支援策に結びつく内容について質問する。

①問題（と考えられる）行動が起きる状況はどのようなものか

特定の間や特定の時間、特定の人との間で起きている場合

→それが要因になっている可能性が高い。

支援策としては

→本人にとって問題となる状況を取り除く

→問題が起こらないようにするための状況を設定する。

（安心できる人、見通しがもてるもの など）

いつも起きている場合

→障がい特性によるもの

→発達上獲得できていないもの

→誤学習によるもの

本人が自ら「自分が困っている」、あるいは「こんなことが苦手だ」、「こんな状況が辛い」、と言えるかどうか大きなポイントです。本人からの申し出や保護者からの聞き取り、前担当者からの引き継ぎ内容も大切な情報になります。

②問題が起きない状況はどのようなものか

本人にとって居心地のよい、安心して活動ができる状況

（特定の間や時間、特定の人、物、できる状況 等）

→これが支援の糸口になる

パニック等は「問題行動」ととらえるのではなく、本人による「困難さの表現」ととらえたいものです。

その行動を抑えるよりも、まず要因を把握し、パニック等に代わる適切な表現（行動）ができるようなソーシャルスキルを身に付ける指導の検討が必要です。

「気持ちはわかるけど、そのやり方はよくないよね（本人もわかっている場合が多い）。どうしたらいいかな（本人と一緒に考える）？」

③問題が起きたときの様子は？

- ・自傷 or 他傷
- ・注意をして止めることができるか
- ・パニックの状況
- ・どのようにしておさまる（切り換える）か、その時間は？

④これまでの対応として良かったこと・良くなかったこと

対応が対象児の実態に合っているかがポイント

- ・視覚優位の子→具体的な経験、具体物、写真や絵、文字による指示
- ・聴覚優位の子→ことばがけの仕方、タイミング、位置
- ・見通しをもつことが難しい子→日程や行程、手順の提示
- ・ほめ方、しかり方→本人にとって実感できるものになっていること
- ・安定できる場・人の確保
- ・担任への支援
- ・周りの子への指導、周りの子のかかわり方